

## 副専攻名 経済政策

## 副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

経済政策の策定と適用方法や、社会の公共的領域の運営・管理を学ぶ専門科目群を幅広く配置する。この中から学生は、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することが出来る。

## 副専攻の学習成果

- 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。
- 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
- 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
- 国際経済、国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
- 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
- さまざまな経済学説や理論を修得する。
- 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為に政策立案能力を養う。
- 将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。
- 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。

## 副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
33138	経済政策論	幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為に政策立案能力を養う。 経済政策とは何かを理解することができるようになる。講義で取り上げた都市政策や住宅政策について、具体的に説明できるようになる。	2～4		
33140	金融経済論	1 金融の基本的概念を理解することができる。 2 家計、企業の金融取引について理解を深める。 3 金融取引における金融機関や金融制度の役割を理解することができる。	2～4		
33143	金融制度論A	主要国(オランダ、イギリス、アメリカ、日本)の証券市場創成史、国民経済と証券市場との関連について一通り理解する。	2～4		
33145	金融制度論B	有価証券(株式、債券)と企業金融について理解を深める。 また、発展学習である敵対的買収と買収防衛策についても一通り理解する。	2～4		
33147	社会政策論Ⅰ	労働市場の現状を多面的に捉え、政策課題が理解できるようになる。	2～4		
33149	社会政策論Ⅱ	現代の労働基準政策・労使関係政策を多面的に捉えることができるようになる。	2～4		
33151	社会保障論Ⅰ	市場経済とは異なる社会保障の仕組みとそれが現代社会において果たしている役割について理解する。そのうえで、社会保障をめぐる具体的な問題状況を新聞・雑誌・統計資料・文献等をつかって自ら整理・分析し、社会保障を見る目を養う。	2～4		
33153	社会保障論Ⅱ	社会保障の各制度ごとの基本的内容と政策上の争点を踏まえたうえで、各自が政策選択について自らの見解を明確にする。	2～4		
33155	財政学A	現代の財政問題と理論的に解明するための基礎を修得する。	2～4		
33157	財政学B	財政のグローバル化など、現代の財政現象を理論的に理解できるようになる。	2～4		
33159	地方財政論A	1.国と地方の財源配分の考え方と制度を理解する。 2.地方税の特質を理解する。	2～4		
33161	地方財政論B	自治体の主要な歳出分野の内容を理解し、持続可能な財政運営を行う上での観点や手法に関する知識を得る。	2～4		
33163	地域経済論A	1. 現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。2. 足下の地域の実態から経済社会の問題を解明する分析視角を養う。	2～4		
33165	地域経済論B	1. 現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。2. 地域経済学と地域政策の歴史的な展開を理解する。	2～4		
33167	生活経済論A	1.生活経済学の理論的背景が理解できるようになる。 2.世界経済の中に、日本・地域での私たちの生活に関わる経済問題を、労働生活と消費生活の側面から、把握できるようになる。	2～4		

**副専攻名 経済政策**

**副専攻のCP(カリキュラム編成方針)**

経済政策の策定と適用方法や、社会の公共的領域の運営・管理を学ぶ専門科目群を幅広く配置する。この中から学生は、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することが出来る。

**副専攻の学習成果**

1. 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。
2. 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
3. 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
4. 国際経済、国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
5. 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
6. さまざまな経済学説や理論を修得する。
7. 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為に政策立案能力を養う。
8. 将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。
9. 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。

**副専攻を構成する科目**

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
33169	生活経済論B	1.生活経済の新たな諸問題を理解する。 2.生活環境のあらゆる場面で主体的で自立した社会人となるために必要な知識の体系を身につける。	2~4		
33171	環境経済論A	(1)環境問題を市場効率性と関連づけて、市場の失敗、外部不経済などのミクロ経済学の基本的観点にたって考えることができる。 (2)環境問題を公正の問題として、問題発生の構造的要因、社会的損失や現代的貧困などの社会経済学の視点から考えることができる。 (3)環境問題を生態系や資源などの問題として、規模やエコロジー効率性、リスク、学習などのエコロジー経済学の視点から考えることができる。	2~4※2		
33173	環境経済論B	(1)今日の代表的な環境問題の概要を説明できるようになる。 (2)環境問題について、環境-経済構造上の要因を分析し、環境政策を組み立てることができるようになる。 (3)環境問題に対し複数の視点で分析し、統合的な政策を志向することができるようになる。	2~4※2		
33175	農業経済論A	農業経済学の基本的な概念を身につけ、それによって農業政策や農村政策、貿易政策を吟味できるようになる。 産業としての農業だけでなく農村や地方都市の視点からも農業や農業政策を検討できるようになる。 環境資源問題の視点からも農業や農業技術について検討できるようになる。	2~4		
33177	農業経済論B	(1)農業をめぐる諸問題や政策を批判的に検討できるよう、農業と農山村について理解を深める (2)農業経済学の基礎にもとづいて農業政策の意義と課題について理解できるようになる。 (3)農山村の新たな可能性について根拠をもって吟味できるよう理解を深める	2~4		

※1. 開講期は、Webシラバスでご確認ください。

※2. 隔年開講